

## 人工呼吸管理の基礎

### Basics of respiratory management for mechanically ventilated patients.

\*中根 正樹<sup>1</sup>

\*MASAKI NAKANE<sup>1</sup>

1. 山形大学医学部附属病院 高度集中治療センター

1. Advanced Critical Care Center, Yamagata University Hospital

陽圧を用いる人工呼吸は非生理的である。そのため、やむを得ず気管挿管人工呼吸が必要になった場合にも、単に救命のために挿管や人工呼吸が必要だというだけでなく、十分な知識と技術をもって繊細に全身的な管理をする必要がある。緊急の場合であっても、その患者が気管挿管や陽圧換気が必要となった理由を明白にしておくことは重要である。これは人工呼吸離脱や抜管の際に、そうなった原因が取り除かれていることが条件のひとつになるからである。気管挿管人工呼吸されている患者では、気道管理、呼吸不全の治療としての人工呼吸設定と様々な呼吸療法、基礎病態改善後の人工呼吸離脱のための評価、抜管後の管理に加え、全経過を通しての鎮痛鎮静せん妄管理と栄養管理を要する。離脱困難を回避するためには早期からの肺理学療法や呼吸筋リハビリ、患者を覚醒させ離床を促すことも大切になってくる。長期化が予想される場合の気管切開、一般病棟での人工呼吸管理への移行にも注意すべき点が多く存在する。安全かつ効果的な呼吸管理、そして如何に非生理的である陽圧換気を用いた人工呼吸の期間を短くできるかが重要なポイントとなるため、そうなるよう全身状態の評価も含めた呼吸管理の基本的な知識を身に付ける必要がある。